

<h1>潮 陵</h1>	学校だより 第 6 号	教育目標
	平成 27 年 10 月 27 日	『ふかく考え、豊かな心を養い、たくましく実践する生徒』
	上越市立潮陵中学校	目指す生徒の姿 『ひとみを輝かせ、たくましく実践を積み重ねる生徒』

日本人としての誇り

「日本人としての誇り！」というタイトルは、やや大袈裟ですが、世界に日本の存在感を示した最近の日本人の活躍ぶりから私自身が率直に感じた思いをタイトルにしました。その活躍ぶりの両輪となるのが、ラグビーワールドカップでの日本チームの大健闘と日本人研究者によるノーベル賞の連続受賞だと思います。

ラグビーワールドカップは世界三大スポーツイベントの一つで、観客動員数 225 万人、テレビ視聴者数が全世界で 42 億人とのことです。正直なところ、日本ではラグビーは、マイナースポーツとの印象が強いように思います。大会前に日本チームのこれほどの活躍ぶりを予想した人はほとんどいなかったのではないのでしょうか。開幕戦となった南アフリカ戦は録画で見たのですが、ルールもよく分からないながら、その戦いぶりにどんどん引き込まれ、胸が熱くなるのを感じました。最後の逆転トライを決めた瞬間は恥ずかしながら涙が込み上げてきました。スポーツを観戦してこうした気持ちになったのは初めてでした。観衆のほとんどが日本チームを応援し、ワールドカップ史上最高の試合と評されるのも日本チームの決して諦めない姿勢と献身性にあふれたプレイがあったからこそだと思います。試合後のインタビューで選手が語っていた次の言葉が今回の勝利とチームカラーに直結していると強く感じました。

皆さんは今回の勝利を意外に思うかもしれませんが、我々は勝つことしか考えていませんでした。勝つために世界一厳しい練習を積み重ねてきたのですから。

次に、今年のノーベル賞に、大村 智さん（医学・生理学賞）と梶田隆章さん（物理学賞）が選出されました。大村さんは微生物を活用した熱帯病の特効薬に関する研究、梶田さんは宇宙形成の謎に迫るニュートリノに関する研究がそれぞれの受賞理由となっています。イギリスのある科学雑誌が過去 15 年間のノーベル賞受賞者をポイント化した結果、日本はアメリカ、イギリスに続いて世界第 3 位の実績を残したという記事も目にしました。今や、日本はノーベル賞の常連国と言っても過言ではない気がします。今年受賞した大村さんの言葉が印象的だったので、紹介します。

人まねではない独自のものを持つということは、失敗も多いということです。成功した人は、そうでない人の何倍も失敗していると思います。若い人に伝えたいことは、「努力。もうちょっと、もう一歩、もうひと頑張り。」の精神です。

日本人って素晴らしい！日本に生まれて良かった！改めてそう感じさせてくれる快挙が続きました。日本人は概して内気で自分を表現することは苦手ですが、日本という国がもつ伝統文化や教育制度、そして日本人のもつ勤勉性や創造性等に対し、私達はもっともっと自信をもっていると思います。そして、大村さんが話された「少しでも人の役に立ちたいという思いで必死にやってきました。」という言葉が胸に刻んで、日本人として恥ずかしくない生き方をしていこうとの思いを新たにしました。

（文責：松縄）